

TAD Letter

DOKI-DOKI

02



富山県美術館

Toyama Prefectural Museum of Art and Design

START☆みんなのミュージアム 2018

ものがたる手とテとて



ポスタービジュアル（デザイン：佐藤卓）

学校 (School) × 富山 (Toyama) × アート (ART) = “START”。

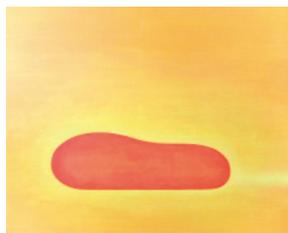
富山県内の小・中・高・特別支援学校の協力のもと、学校の児童生徒のみなさんが主役の展覧会が「スタート」します。

今回は美術作家・さとुरいさに参加してもらい、「ものがたる手とテとて」をテーマに展示します。児童生徒の「手」によってつくり出された作品が「ものがたる」のは、一人ひとりが心の中で思っていることや、みんなが通う学校のこと、暮らしている地域のこと。そんなだれかに話したいことや伝えたいことが、個性豊かな作品となって集まりました。

展覧会には、学校とさとुरいさのコラボレーションによる作品展示や、さまざまなワークショップなど、アートを体感できるしかけもたくさん用意しています。子どももおとなも先生たちも、だれもが光り輝く「スター☆」になれるのです。この冬の富山県美術館に、みんなあつまれ!

※同時開催：子どものためのコレクション展

作品介绍



左：さとुरいさ
本展のためのドローイング

右：さとुरいさ《つもることたつ#1》
2017-18年

開催概要

- 会期：2018年1月20日（土）～3月4日（日）休館日＝毎週水曜日、2月13日（火） ●会場：富山県美術館 2階 展示室3、4
- 観覧料：一般 500円（400円）／大学生400円（300円） 高校生以下無料 ※（ ）内は20名以上の団体料金



富山県美術館への新築移転後初の教育企画展。富山県内の小・中・高・特別支援学校の児童生徒が制作した個性豊かな作品の数々を中心に、今回は美術作家・さとうさを招待し、富山市立奥田小学校の全校生徒と行ったワークショップ作品も展示します。さとうさんの巨大なバルーン作品も館内に登場します。会期中には子どもから大人まで楽しめるイベントを開催しますので、お楽しみに。

関連イベント

※詳細はウェブサイトをご覧ください。

① さとうりささんとワークショップ「折ってたたんでひみつ基地！」

みんなで大きな紙を折って基地をつくります。完成したらひみつのかざりもつけちゃおう。

●日時：1月20日（土）13：30～ ●会場：アトリエ（小学生以上対象、定員15名、要申込）

② ちいさな子どもたちのための「ひよこツアー」

小学校にあがる前の子どもとその家族のためのプログラム。鑑賞や工作を通じて美術に親しみます。

●日時：2月8日（木）、9日（金） 各回10：00～ ●会場：アトリエ、展示室2（未就学児とその家族対象、各回定員10組、要申込）

③ アニメーション上映会

●日時：2月11日（日）13:00～ ●会場：ホール（定員約50名、申込不要）

④ みんなのギャラリートーク

学芸員と一緒に展示室をまわります。子どももおとなも参加OK。

●日時：1月28日（日）、2月3日（土）、10日（土）、17日（土）、3月4日（日） 各回14：00～ ●会場：展示室2、3、4

富山県美術館開館記念展 Part 3
デザインあ展 in TOYAMA
Exhibition “Design Ah!”



子どもたちのデザインマインドを育む番組 NHK Eテレ「デザインあ」。本展は「デザインあ」のコンセプトを、体験の場に発展させた展覧会です。優れたデザインには、人と人、人とモノをよりよくつなぐ工夫があります。番組では、身のまわりに意識を向け(みる)、どのような問題があるかを探り出し(考える)、よりよい状況をうみだす(つくる)という一連の思考力と感性を「デザインマインド」ととらえ、多彩な映像表現をもちいて伝えてきました。デザインあ展は、この「デザインマインド」を見て、体験できる展覧会です。2013年に東京で開催された前回展から作品を新たに、身のまわりにあるモノ・コトから概念までテーマをほりさげます。未来を担う子どもたちに、「見る」「考える」「つくる」ことの豊かさを体感してもらいたいと願っています。

総合ディレクター：佐藤卓

映像ディレクター：中村勇吾

音楽ディレクター：小山田圭吾

主な展示構成作家：岡崎智弘、Perfectron、plaplux

開催概要

●会期：2018(平成30)年3月21日(祝・水)～5月20日(日) ※会期中の休館日：3月28日(水)、4月4日(水)、11日(水)、18日(水)、25日(水)、5月16日(水) ●会場：富山県美術館 2階 展示室2、3、4 ●観覧料：一般 1,300円(1,000円) / 大学生950円(750円) / 一般前売り1,000円 高校生以下無料 ※()内は20名以上の団体料金、一般前売り販売は展覧会会期初日(3月20日)まで



デザインあ展



2013(平成25)年に東京で開催され、22万人を動員した前回の「デザインあ展」。5年を経て開催する本展では、作品を一新。当館の屋上遊具の監修を手掛けたデザイナーの佐藤卓が総合指導を行っています。五感をフル活用し、「観察」「分類・分解」「再構築」といった思考プロセスを導き出す仕掛けが込められた体験型展示作品や、オリジナル音楽と映像を用いた体感型インスタレーション、来場者が創造することで出来上がっていく参加型作品など、デザインの楽しさ・面白さを体験できる作品を紹介します。

※当館の屋上庭園「オノマトベの屋上」の7つの遊具のデザインは、佐藤卓氏が手掛けています。展覧会と一緒に楽しみください。
(3月15日まで冬期休園中)

INFORMATION

3

富山県美術館の展覧会スケジュール

高野山金剛峰寺 襖絵完成記念 千住博展

●会期：2018年6月9日(土)～7月29日(日) ●会場：富山県美術館 2階 展示室2、3、4

○オープンラボ（土日祝）

「角風船つくらんまいけ！カクカク物語」

START 展に関連 越中富山の売薬さんが薬と共に家庭に配布した角風船を1からつくります。

つくった白い角風船の4面に自分で考えた物語を絵で描きこみます。

※未就学児はしりとりで絵を描きます。

●会期：1月13日（土）～3月4日（日）の土日祝に開催

★1月27日（土）、2月24日（土）は富山大学人間発達科学部によるべけべけ☆アートショップを実施します。

●会場：富山県美術館 3階ラボ（アトリエ内） ●参加費：無料（定員：10家族程度 ＊会場の混雑状況により変動します）

●受付時間：10:00～11:30 / 14:00～15:30 ●活動時間：10:00～12:00 / 14:00～16:00

○オープンラボ（平日）

「デコボコお絵かきタイム！」

子どものためのコレクション展に出品中のマックス・エルンスト作《博物誌》で用いられている
絵画技法のフロッターージュ。日用品を素材としてこの技法を実際に体験し、作品理解を深めます。

●会期：2018年1月18日（木）～3月19日（月）の平日に開催 ●会場：富山県美術館 3階 ラボ（アトリエ内）

●参加費：無料 ●活動時間：10:00～16:00

TADファン、アート好きな
皆さまとこれからも♪

友の会では、今年度事業としてこれまでに、「三沢厚彦氏をかこむ会」、「富山県総合デザインセンターの見学&能作新工場見学と製作体験」、「ビエンナーレTOYAMA出品作家解説会&たいめいけんおすすめコースのタベ」、会員限定でTAD開館記念展の「夜間特別鑑賞会」を開催しました。また、「アートツーリズム2017」では、大阪・兵庫の美術館、4館を巡りました。

引き続き、TADファン、アート好きなみなさまに楽しんで頂ける事業を企画していきます。

一緒に楽しみましょう！



「夜間特別鑑賞会」参加者162名がTADホワイエに集合

ミュージアムショップも DOKI-DOKI (させたい)

レインボースティックは回転させるとしゃぼん玉のように綺麗に光る不思議なスティック。その他にもブロックパズルや小さな積み木などが人気なのは、子どもたちがたくさん訪れる富山県美術館ならではだと思っています。

3月21日(祝・水)からの「デザインあ展 in TOYAMA」開催期間には展覧会オリジナルグッズを販売する予定です!子どもたち、どきどきしてくれるかなあ。スタッフも「DOKI-DOKI」しながら準備を進めています。

- 営業時間:10:00~18:00 ●定休日:美術館 休館日
- TEL + FAX : 076-471-5175



出だし好調なコレクション展

美術館活動の主役は展覧会です。展覧会は通常コレクション展と企画展で構成されています。二つの展覧会を観覧者数で比較すると、富山近美時代はおおむね「企画展」>「コレクション展」でした。では富山県美術館はどうでしょうか。1月8日時点で「コレクション展」(95,205人)>「企画展」(80,430人)と逆転しています。その要因は幾つか考えられるでしょう。企画展と所蔵メイン作品のコレクション展を同じフロアに配置し後者

に流れやすくしたこと、開館記念購入の藤田嗣治効果、3Fのデザイン、瀧口、ゴールドベルクのユニークなコレクションの見せ方に一工夫したことなどです。館の性格をダイレクトに示すコレクション展に多くの方が足を運ばれている——美術館にとって何よりもありがたいことです。



コレクション紹介

フェルナン・レジェ / Fernand Léger / 1881～1955

《誕生日》1950年 / タピストリー / 198.0×157.0cm



やわらかな笑みを浮かべた二人の女性。誰の誕生日のお祝いなのでしょう、大きな花びんに仲良く花を生けているところのようです。

くっきりと太く単純化された輪郭線の微妙な強弱で、人物の確かな存在感が描き出されています。赤、青、黄、…明快な色面は人間像のかたちにとられず、伸びやかに広がります。

誕生日に想う、生まれ来たことへの率直な感謝。生きる喜びにあふれ、平和な日常の暮らしへの讃歌が心地よい作品です。

レジェは建築と装飾美術を学んだ後、セザンヌの回顧展に影響を受け、ピカソとブラックが創始したキュビズムの運動に参加。モンパルナスのラ・リュシュ(蜂の巣)と呼ばれた共同住宅兼アトリエに住み、シャガールやモディリアーニらと友情を育みました。やがてジャック・ヴィヨン、ジャン・メツ

ツアンジェらと「セクション・ドール」を結成し、色彩と動きを追求して機械文明のダイナミズムを表現します。第一次世界大戦後にはル・コルビュジエの建築の壁画を担当し、舞台芸術やステンドグラスなどでも活躍しました。第二次世界大戦中はアメリカに亡命し、さらに明るい色彩を獲得。戦後は本作にも見られるような群像表現を主に、しばしばピクニックやサーカスなどの主題によって、現代に生きる人々の姿を明るい色彩と軽快な輪郭線で描き出しました。

レジェは、前時代までの芸術にあった「趣味のよい主題」といった束縛から描く対象を解き放ち、いきいきとした造形要素として捉えなおした画家でした。20世紀という新しい時代の主役であるべき大衆のために、陽気で力強く、率直な幸福感に満ちた新しい美学を創出しようとしたレジェ。フランスのニース近郊に建つレジェ美術館の壁には、彼の自筆で「絵画は感傷的な叙述や表現によってではなく、それ自体の美を追求すべきだ」という言葉が書かれています。 (普及課長 若松 基)

※この作品は「子どものためのコレクション展」(1/20～3/4、展示室2)で展示されています。

富山県美術館 (TAD)

〒930-0806 富山県富山市木場町3-20(富岩運河環水公園内)

TEL:076-431-2711 FAX:076-431-2712 <http://tad-toyama.jp/>

発行日:2018年1月31日